

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-193	高等学校	芸術	音楽 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
27 教芸	音 I 309	高校生の音楽 1		

1. 編修の趣旨及び留意点

[編修の趣旨]

教育基本法の趣旨に則りつつ、学習指導要領音楽科に示された内容を無理なく習得することができるように、次の事項を編修の趣旨としました。

① 学習内容と手順が明確に分かる教科書

前半の歌唱、創作、鑑賞教材のセクションにおいては、学習目標を全ての教材に大きく示し、それに迫るための具体的な学習活動を、手順に沿って示しました。さらに、思考・判断を行うための指針となる問いかけを「吹き出し」の形で示し、学習の観点が明確になるように工夫しました。

② 主体性や創造性を育む学習に確実に取り組める教科書

生徒一人一人の主体性や創造性を育むうえで特に大切な「創作」の学習内容を吟味し、活発な学習活動ができるよう、ねらいや手順を明確に示しました。

③ 我が国や世界の音楽文化のよさを味わいながら豊かな心を育むことのできる教科書

我が国の音楽文化に誇りをもつと同時に、他国の音楽文化に対しても自国と同様に尊重する態度を養えるよう、我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取り、それらのよさを味わうことができるようにしました。

④ 中学校での学習内容を系統的に発展させることのできる教科書

中学校で学習する内容を踏まえて、それらを系統的に発展させて学習することができるような内容を含め、中学校とのスムーズな接続が可能になるように工夫しました。

[編修上の留意点]

より分かりやすく、学習がスムーズに進む教科書とすべく、次の点に留意しました。

① ユニバーサルデザインを目指した内容、デザインとする。

全ての生徒にとって、分かりやすく、取り組みやすい教科書となるよう、教材そのものの難易度や、文章の分かりやすさにいっそう配慮するとともに、重要な学習事項が優先的に目に入るような、シンプルなデザインとしました。また、色の見分けのつきにくい生徒にとって、学習上の支障が生じないよう、当事者チェックを受けています。

② 生徒の興味・関心を高め、学習意欲を喚起しやすい内容とする。

学習の動機付けとなるような情報を示し、生徒の興味・関心を高め、より主体的な学習ができるように工夫しました。

2. 編修の基本方針

教育基本法第二条に定められた教育の目標を踏まえ、音楽科における知識・理解を深め、思考力・判断力・表現力のバランスよい育成を図るために、次のような基本方針のもとに編修しました。

- 1 | 音楽科の学習を通して**知識・教養の確実な向上**を図ることができるよう、学習指導要領に示された「内容」と緊密な関連をもった学習が確実に行われるようにしました。
- 2 | 「創作」の学習などを通して**個人の創造性を培う**とともに、グループ活動等によって**主体的に「協働」**しながら学習を進めることができるようにしました。
- 3 | **命の大切さを尊び、他を尊重する心を養う**ことができるような歌詞をもつ教材を多く取り入れました。
- 4 | **我が国や郷土を愛する心を育成**することができるように、我が国の伝統的な音楽や郷土の音楽を教材として扱いました。

3. 対照表

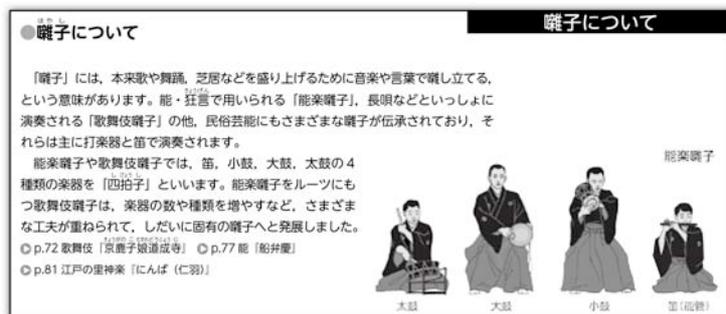
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全般	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな音楽的感性や情操を育成することのできる教材を選択・配列しました。(第一号) 	<p>p. 8～39, p. 42～138, p. 158～159</p>
表現教材（歌唱）	<ul style="list-style-type: none"> 他を尊重したり，自然を愛する心を育てたりすることのできる教材や，道徳的観点と関連付けて取り上げられる教材を含めました。(第一号，第三号及び第四号) 我が国の長唄や民謡を歌唱教材として取り上げ，我が国の伝統的な歌唱の学習を確実に進められるように配慮しました。(第五号) 小中学校の歌唱共通教材をはじめとする我が国で長く親しまれている歌には「心の歌」という共通のロゴを掲載し，世代を超えて親しみ，歌い継いでいくという趣旨を生かした学習が行われるようにしました。(第五号) 	<p>p. 8「ひまわりの約束」 p. 12「世界に一つだけの花」 p. 20「この道」, p. 22「夏の思い出」 p. 24「花の街」, p. 114「荒城の月」 p. 116「ふるさと」</p> <p>p. 74『京鹿子娘道成寺』から p. 84「ソーラン節」</p> <p>「目次」 p. 16「待ちぼうけ」, p. 20「この道」 p. 22「夏の思い出」, p. 24「花の街」 p. 114「荒城の月」 p. 116「ふるさと」</p>
表現教材（器楽）	<ul style="list-style-type: none"> 各楽器の特性や基本的な奏法が理解できるように，分かりやすい写真と説明文を示しました。(第一号) 和楽器を活用した学習活動を通して，我が国の伝統的な音楽に親しみ，そのよさを味わえるようにしました。(第五号) グループ活動の中で，協力しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号) 	<p>p. 32 「Happy Birthday to You」 p. 36 箏曲『六段の調』から</p> <p>p. 36 箏曲『六段の調』から</p> <p>p. 34 「Clapping Quartet No. 1」</p>
創作教材	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の創造性を育成するために，創作の学習目標と学習内容を明確に示しました。(第二号) 創作におけるグループ活動の中で，協力しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号) 	<p>p. 38 イメージをもってアンサンブルをつくろう p. 83 日本の音階で旋律をつくろう p. 138 〈喜びの歌〉を二重奏に編曲しよう</p> <p>p. 38, p. 83, p. 138 (上同)</p>

鑑賞教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く音楽文化に関わる知識に触れられるように配慮しました。また、互いに意見交換出来るようなコーナーを含めました。(第一号及び第三号) ・ 我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統的な音楽や郷土の音楽を、明確な学習の観点のもとに学習できるように示しました。(第五号) ・ 他国を尊重する態度を育成するために、諸外国の伝統的な音楽を教材として取り上げました。(第五号) ・ 他国の音楽文化を学習する際にも、自国との関連が図れるように工夫しました。(第五号) 	<p>p. 42～59 西洋音楽の鑑賞 p. 60～69 西洋音楽史</p> <p>p. 72 歌舞伎『京鹿子娘道成寺』 p. 75 江戸時代に生まれた音楽 p. 76 伝統音楽の流れ p. 80 日本の民謡と民俗芸能</p> <p>p. 86～89 世界の諸民族の音楽</p> <p>p. 87「森のさけび」尺八楽との比較 p. 88「アーヴァーズ」三味線音楽との比較</p>
その他の教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音符や休符、記号の名称や意味などをはじめとする、楽典の資料、また、オーケストラの編成や楽器の名称、楽器の図鑑を含めました。(第一号) ・ 古代から現代まで、西洋音楽と日本音楽の歴史を概観する「音楽史年表」を含めました。(第一号) 	<p>p. 140～149 楽典 p. 150 オーケストラの編成 p. 152 楽器の図鑑</p> <p>p. 154～157 音楽史年表</p>
口絵、写真資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国で伝承されている芸能を迫力ある写真で紹介し、我が国の伝統的な芸能を知り、愛国心を育成できるようにしました。(第一号及び第五号) ・ 我が国の伝統芸能を写真を用いて示し、それぞれの特徴を感じ取るとともに、芸能の流れを知ることができる図版も示しました。(第一号及び第五号) 	<p>p. 4 伝承の灯火をつなぎ西本願寺に舞う獅子</p> <p>p. 70, 71 伝統芸能とその音楽 p. 76 伝統音楽の流れ</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 我が国の音楽文化

我が国や郷土を愛する態度を育成できるように、我が国の音楽文化について取り上げる際には、その背景や生活との関わりなども示しました。
p.72～73, p.75～81, p.85



② さまざまな場面で取り組める合唱曲

音楽を学校生活により生かすことができるように、「音楽の歓び」の楽譜集ページには、行事等でも取り上げることのできる合唱曲を掲載しました。p.114～131

③ 学習内容が一目で分かる目次

各教材の学習目標を明記し、学習指導要領に示された音楽科における学習内容を踏まえつつ、学習指導要領の「内容」に準拠したバランスのよい学習が行われるように配慮しました。

④ 学習目標や学習活動文とコラム

音楽についての基礎的な理解を促進するために、各教材には学習目標を明確に示すとともに、それに即した学習活動文や吹き出しによる問いかけなどを示しました。

また、教材によってはコラムを設け、より具体的な観点に基づいた学習ができるよう工夫しました。

p.15, p.47, p.55, p.62,
p.73, p.110, p.137 など

ピアノの華やかな響きを感じ取ろう -学習目標

ショパンのピアノニズムを聴こう

○p.66 西洋音楽史「ロマン派」

ショパンのピアノ曲は、ピアノのもつ表現力の可能性を最大限に生かして作曲されています。

コラムと吹き出し

ショパンが愛用したピアノ
ショパンが最も愛用したピアノは、1807年に創立されたフランスのピアノ製作会社、プレイエル社のものだった。また彼は、パリでのデビューコンサート(1832年)をプレイエル社のコンサートホール「サル・プレイエル」で行うなど、この会社とともに関わりが深かった。

このピアノは、ショパンが所有していたのと同じ型のプレイエル社のピアノだよ。

⑤ 歌唱や合奏に関するコラム「歌唱のポイント」「合奏のポイント」

音楽に関する基礎的な技能を養うことができるよう、歌唱の学習活動に必要なコラム「歌唱のポイント」を掲載しました。

また、合奏の学習活動では「合奏のポイント」を設け、分かりやすい図版を交えて解説しています。

「歌唱のポイント」：p.11, p.15, p.21, p.27, p.30, p.74, p.85

「合奏のポイント」：p.35

編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-193	高等学校	芸 術	音楽 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
27 教芸	音 I 309	高校生の音楽 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①基礎的・基本的な知識・技能の習得への配慮

前半の歌唱，創作，鑑賞教材のセクションにおいては，全ての教材に学習目標を示すとともに，それに迫るための具体的な学習活動を手順に沿って示し，基礎的・基本的な知識，技能を確実に習得できるように配慮しました。さらに，思考・判断を行うための指針となる問いかけを「吹き出し」の形で示し，学習の観点が明確になるように工夫しました。また，言語活動を促す文言を示し，生徒の表現力が育成されるように配慮しました。さらに，創造的に音楽活動に関わり，中学校で学習した基礎的な表現と鑑賞の能力をさらに発展させ，確実に身につけていくことができるように，適切な教材を選択しました。

②学習指導要領の「内容」との関連の明示

各教材の学習目標を明記し，学習指導要領の「内容」に示された指導事項をバランスよく扱うことができるようにしました。

特に前半の歌唱，創作，鑑賞教材については，各教材の学習目標を大きく示し，指導要領の「内容」に示された学習活動を確実に行うことができるように配慮しました。

③道徳教育へのアプローチ

他の人々に対する思いやりの心もち，友情の尊さを理解するなど，道徳教育に資する歌詞をもつ歌唱教材を取り入れました。また，我が国の伝統的な音楽や長く歌い継がれてきた歌の学習を通して，日本人としての自覚をもつことができるように内容を充実させました。さらに，我が国の伝統芸能から伝統を重んじる心を知ったり，協同する感動を感じ取ったりすることができる写真を見開きで大きく示しました。

④音楽を理解するための記述

鑑賞教材において，各楽曲の構造をイラストや譜例などを駆使して分かり易く示し，音楽の構造や仕組みなどをしっかりと理解しながら学習を進められるよう配慮しました。また，鑑賞に続く「西洋音楽史」では時代を追ってさらに内容を深められる構成にしました。

133	木星					○	○	○	○								
134	リベルタンゴ					○	○	○	○								
136	いつも何度でも					○	○	○	○								
138	〈喜びの歌〉を二重奏に編曲しよう											◎	○				
139	音楽の著作権について知ろう	「内容の取扱い」(8) 音楽に関する知的財産権															
140	楽典				○			○				○	○		○		
148	リコーダーの運指表							◎									
150	オーケストラの編成													○	○		
152	楽器の図鑑													○	○		
154	音楽史年表															◎	◎
158	モーツァルトの旅													○	○	◎	